

自治体における取組事例

—埼玉県—

埼玉県鴻巣保健所
松岡 綾子

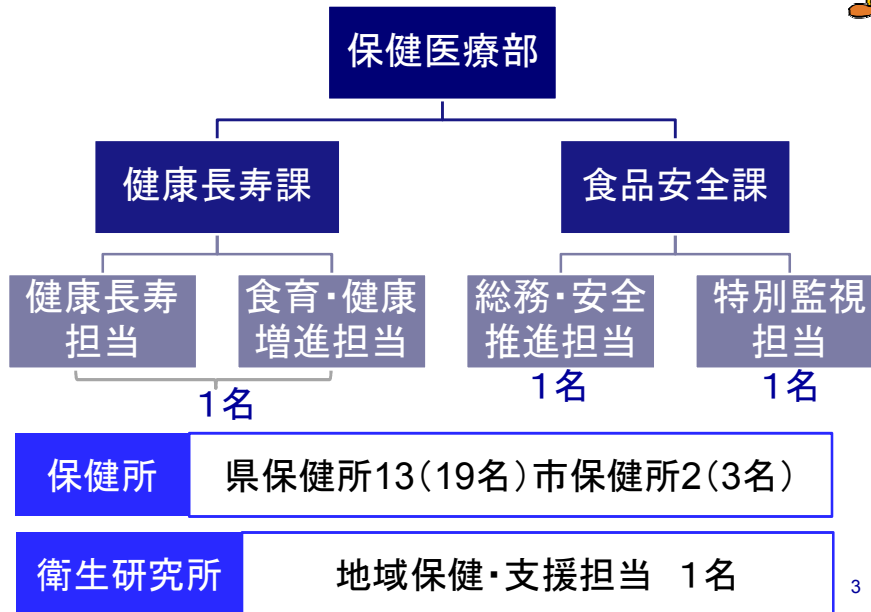


本日の流れ



1. 埼玉県の組織
2. 埼玉県県民健康・栄養調査
3. 行政栄養士としての取組
4. 埼玉県の特徴
5. 今後の課題

埼玉県の組織体制(栄養士配置状況)



3

衛生研究所 地域保健・支援担当



- 地域の健康情報把握ソフト『ツール君』を作成し、保健所・市町村へ提供
健康寿命の算出
人口・出生・死亡(SMR等)・高齢化・死因・母子保健の現状等
地域の現状と健康指標(衛生研究所HP)
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/sihyou.html>
- 特定健診・保健指導結果の集計
- 国民健康・栄養調査埼玉県分の集計

4

埼玉県民健康・栄養調査



【目的】

県民の食生活や健康状態を把握することより、健康と栄養の関係や課題を明らかにし、健康づくり施策に生かす。昭和61年から5年ごとに実施

【体制】

平成23年度調査は女子栄養大学に委託
調査票の設計、調査の実施、データの解析等については、ワーキングを組織し検討

【対象】

満30歳以上60歳未満の男女1,200名
県内都市部の特徴を表す4市を対象にクラスター層化抽出法で抽出

5

埼玉県民健康・栄養調査



【調査内容】

1日または2日間の食事状況と生活習慣(栄養、運動、休養、飲酒、喫煙等)に関するアンケート調査

【調査時期】

平成23年10～11月

【回収状況(解析対象者)】

食生活状況調査 762名(757名)

食物摂取状況調査 691名(666名)

- 対象者が30歳以上60歳未満
- 複数日調査の実施
- 共同研究事業

6

行政栄養士協議会研修会(平成25年度)



H25.3.29 行政栄養士 基本指針
H25.4 健康日本21(第2次)
H25.6 保健医療科学院研修



私たちの業務はこのままでいいのだろうか？
私たちの進む方向は？



公衆衛生事業部全国研修会に参加



保健所栄養士が中心となって、研修会を企画

行政栄養士協議会研修会(平成25年度)



【講師】女子栄養大学 武見ゆかり先生

【ねらい】

- (1) 行政栄養士基本指針を理解する
- (2) 日常の仕事の中で感じていることを、客観的なデータにつなげる楽しさを体感する

【内容】

講義 行政栄養士基本指針を実践するために
演習 データとあなたの現場感覚をつなげて
みよう

行政栄養士協議会研修会(平成25年度)



【演習資料】

「地域における行政栄養士による健康づくり
及び栄養・食生活改善の基本指針」資料集に
準じて埼玉県データを作成

資料作成・提供 埼玉県衛生研究所

○中心となった栄養士が武見先生にご指導
いただき内容&資料を検討

9

行政栄養士協議会研修会(平成25年度)



【対象】 県庁・保健所・保健センターの栄養士

【日時】 平成25年9月29日(日)13:15~16:40

【周知方法】

担当栄養士→保健所→市町村保健センター
メールで通知&電話等でお誘い

【実施主体】 行政栄養士協議会

【参加者】 保健所21名 保健センター31名

10

行政栄養士協議会研修会(平成26年度)



【年間テーマ】

健康日本21(第2次)の推進のために、
行政栄養士の業務指針を活用した考え方や
スキルを学ぶ

【内容】

講師 保健医療科学院 石川みどり先生

講義・演習・事例発表

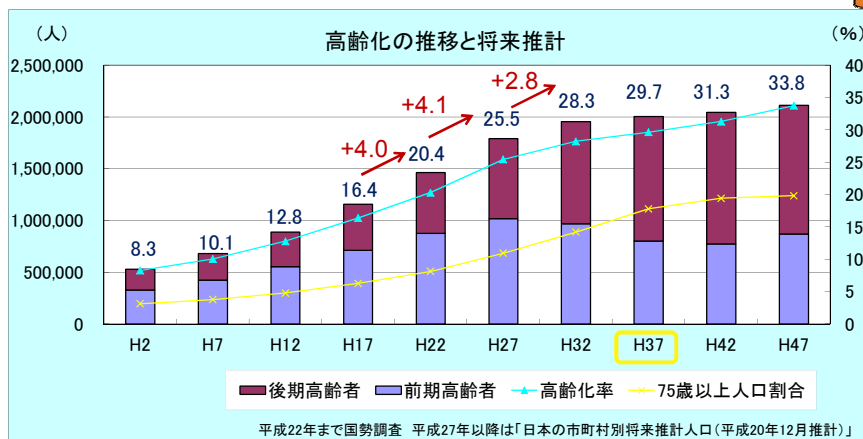
【日時】平成26年5月24日(土)10:00~16:30

平成26年6月14日(土)10:00~16:30

○保健所ごとにも取組

11

高齢化の状況



平成37年には高齢者人口が200万人を突破！
群馬県、栃木県の人口に匹敵する数！

12

死亡の状況と原因(埼玉県)



・年齢調整死亡率(人口10万対)(平成22年)(資料集 p13)

男性 541.3(24位) 女性 288.0(7位)

・主な死因による死亡状況(資料集 p15-17)

全国データ【資料集】参照

死因	男性		女性	
	死亡率	順位	死亡率	順位
①悪性新生物	179.5	25	93.4	14
肺	39.0	41	10.9	23
胃	31.2	10	11.4	10
大腸	21.1	17	11.8	25
②心疾患	83.5	7	47.4	3
③脳血管疾患	51.0	18	29.2	15
④肺炎	49.7	12	22.0	5

厚生労働省「都道府県別にみた死亡の状況 平成22年都道府県別年齢調整死亡率

13

疾病の状況



患者数からみる
(人口10万対受療率)

高血圧性疾患 46位
高脂血症 44位
虚血性心疾患 27位
糖尿病 45位
糖尿病性腎症 39位

(年齢調整していないデータ)
「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針」を実践するための資料集

資料集 P41~42

特定健診の結果からみる
(40~74歳) 受診率 37.2%

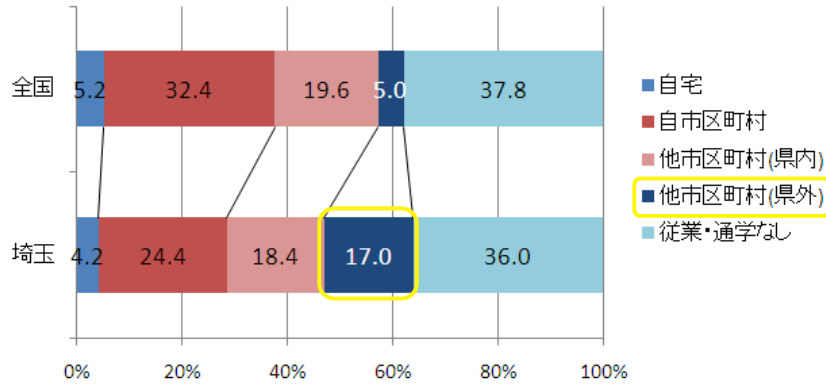
男女とも
肥満者 11~37位
血圧高値 11~37位
血糖高値 11~37位
中性脂肪高値 11~37位
LDLコレステロール高値 11~37位

(年齢調整済みデータ)
地方自治体による効果的な健康施策展開のための既存データ活用の手引き

資料集 P43~44

14

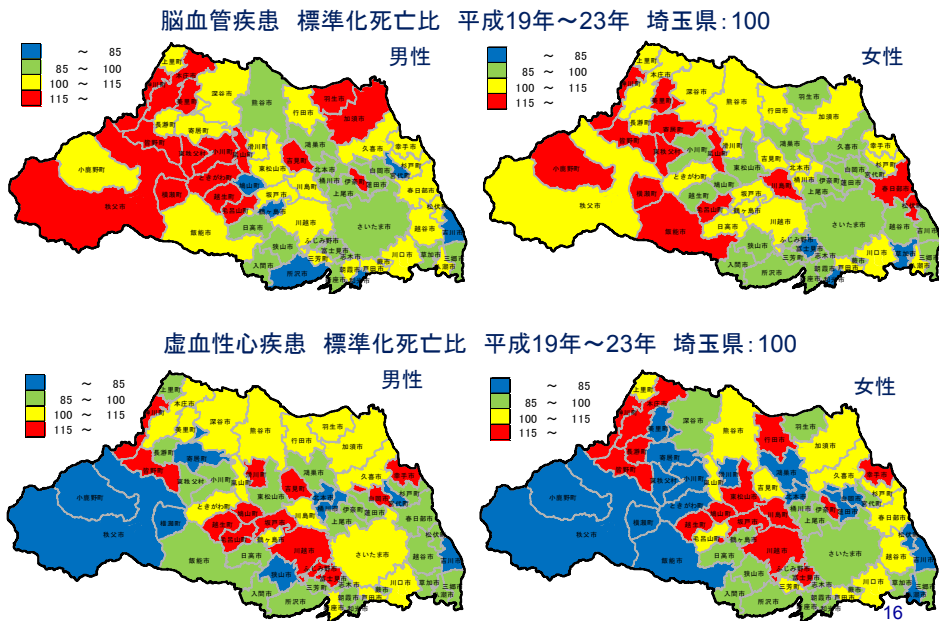
常住地または従業地・通学地による人口



就業・通学で他県流出する割合17.0%で全国**1位**！
 人数では106万人で神奈川県に次いで**2位**！
 昼夜間人口比率88.6%で全国**47位**！

資料：国勢調査(平成22年)

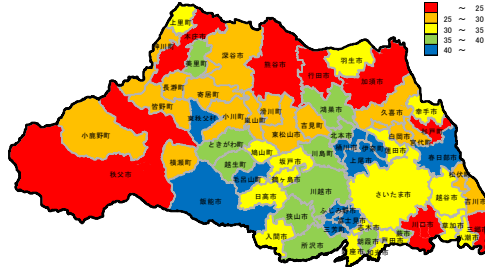
死亡の状況



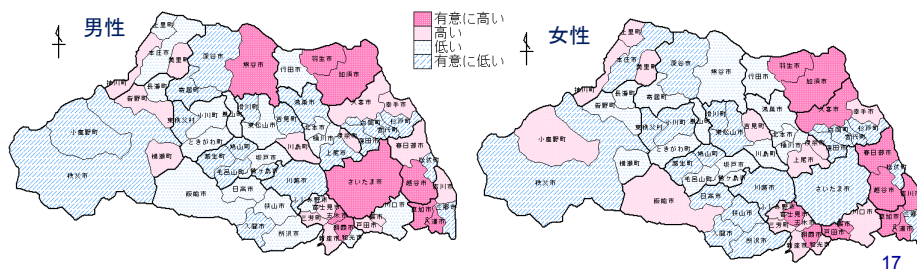
受診率・メタボ該当率



特定健診受診率 平成23年(市町村国保) 埼玉県: 33.1%



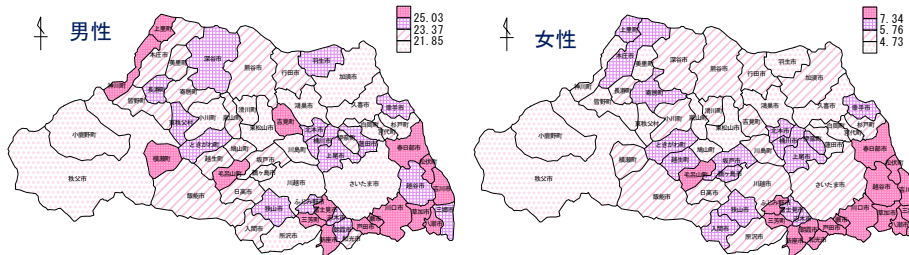
メタボリックシンドローム該当者 標準化該当比 平成23年 基準: 埼玉県



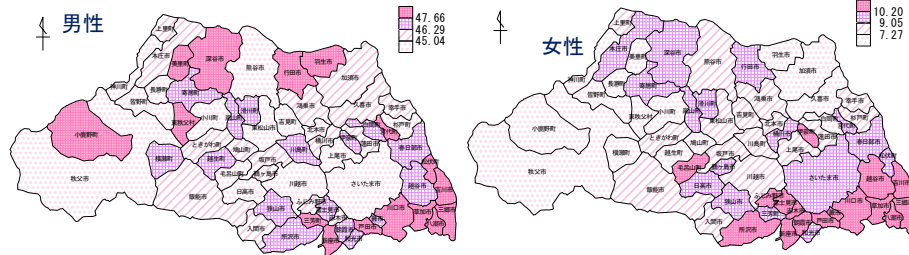
標準的な質問票(喫煙・飲酒)



習慣的に喫煙している者の割合 標準化出現率 平成23年 埼玉県男性23.3% 女性6.3%



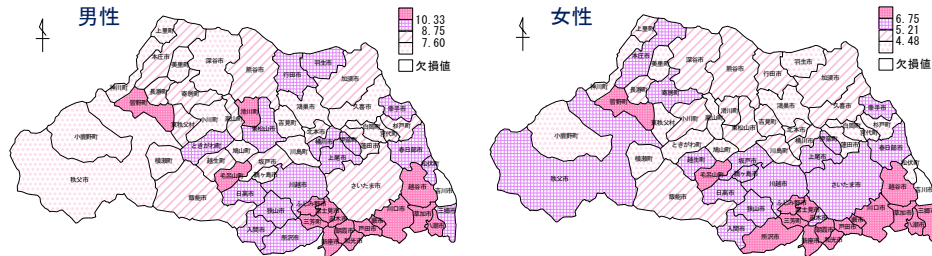
毎日飲酒している者の割合 標準化出現率 平成23年 埼玉県男性45.7% 女性9.6%



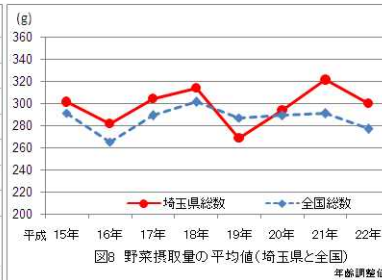
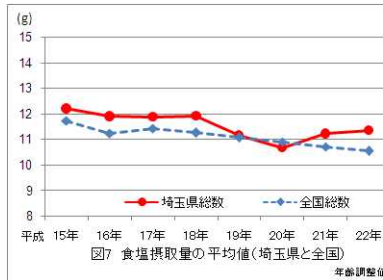
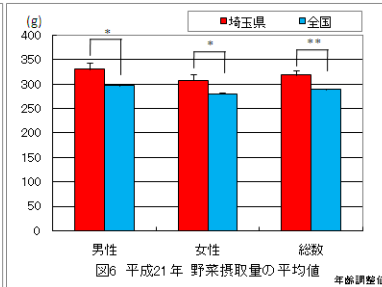
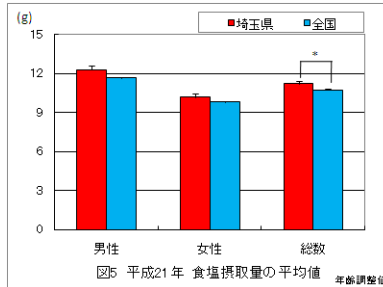
標準的な質問票(朝食)



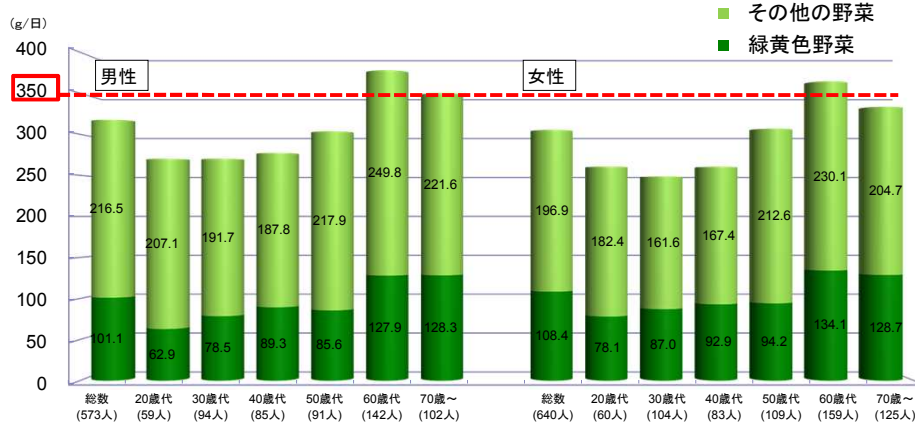
朝食を抜くことが週3回以上ある者の割合 標準化出現率 平成23年
 埼玉県男性9.5% 女性6.2%



国民健康栄養調査(全国との比較)

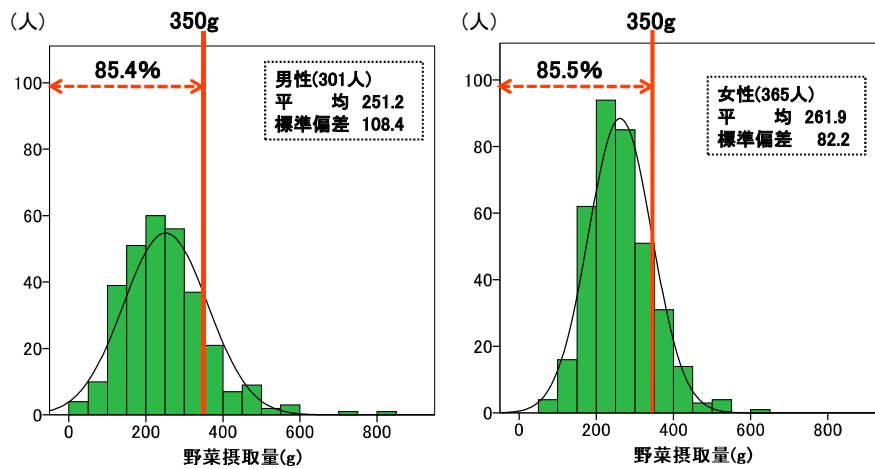


国民健康・栄養調査(埼玉県分)からみる状況 —野菜摂取量 性年代別—

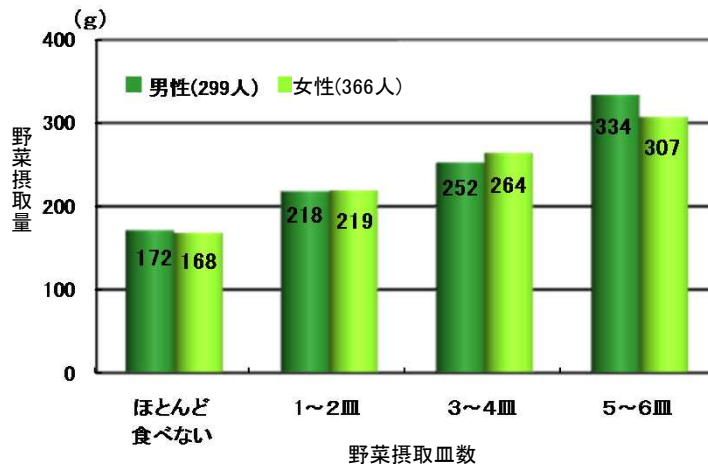


国民健康・栄養調査 埼玉県実施分 平成20~22年の平均値
平成20-22年 国民健康・栄養調査埼玉県分 20歳以上 男性573人 女性640人 21

平成23年度埼玉県民健康・栄養調査 —野菜の習慣的摂取量—

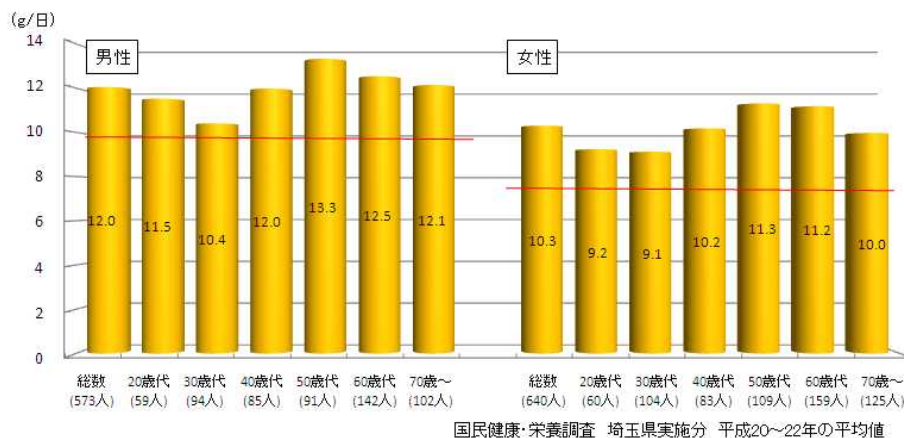


平成23年度埼玉県民健康・栄養調査 — 野菜摂取量と摂取皿数 —



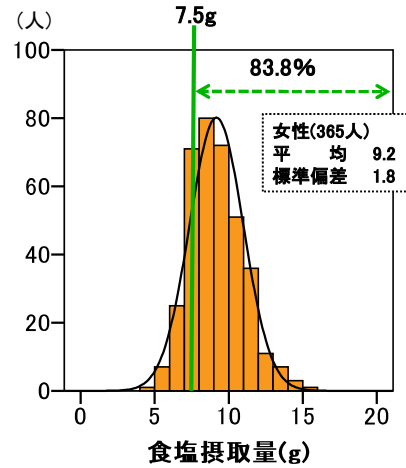
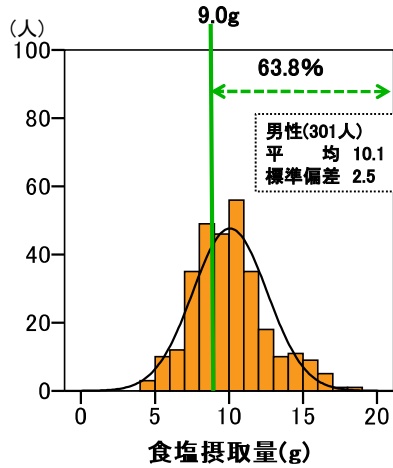
23

国民健康・栄養調査(埼玉県分)からみる状況 — 食塩摂取量 性年代別 —



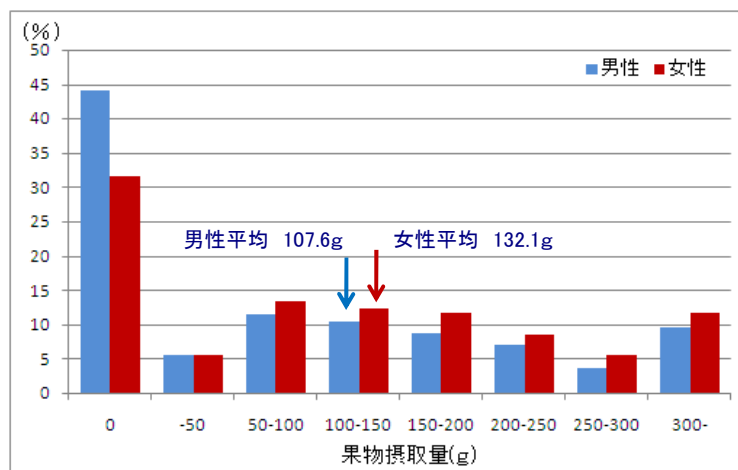
平成20~22年 国民健康・栄養調査埼玉県分 20歳以上 男性573人 女性640人 24

平成23年度埼玉県民健康・栄養調査 —食塩の習慣的摂取量—



25

国民健康・栄養調査(埼玉県分)からみる状況 —果実類(ジャムを除く)摂取量—



平成20-22年 国民健康・栄養調査埼玉県分 20歳以上 男性573人 女性640人

26

今後の課題



研修会はやったけれど・・・

- 埼玉県としての課題は？

食生活の特徴を明確にするために・・・

- 栄養調査の再解析
- 新たなデータを収集する仕組みづくり

格差を把握するために・・・

- 地域ごとのデータ収集・分析
- 新たなデータを収集する仕組みづくり

27

今後の展開 まずはできることから・・・



鴻巣保健所としての取組

『勤労者世代の生活習慣病の
発症予防と重症化予防』

- 管内市町とともに実態把握・課題分析
- 企業(事業所給食)・飲食店(健康づくり協力店)と連携による情報の発信

埼玉県民健康・栄養調査を再解析し、30歳代～50歳代
までの食事の状況について把握し、基礎資料を得る